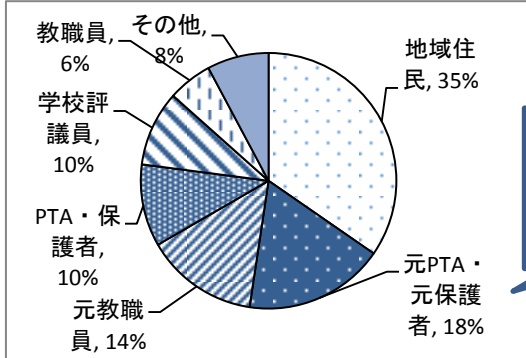


平成28年度奈良県学校・地域パートナーシップ事業に関する調査結果 地域コーディネーターについて

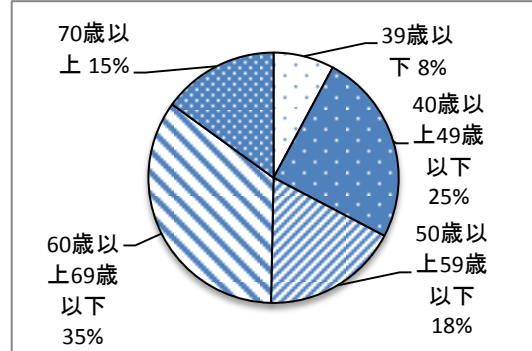
地域コーディネーターの現状について

(1) 地域コーディネーターの所属について



昨年度
元PTA・元
保護者
11%

(2) 地域コーディネーターの年齢構成



(3) 学校支援ボランティアの人数

125.8 (昨年55.4)

(4) 経験年数

3.5年 (昨年3.4年)

(5) 1か月の平均活動時間数

10.1時間 (11.3時間)

(6) 1か月の平均学校訪問回数

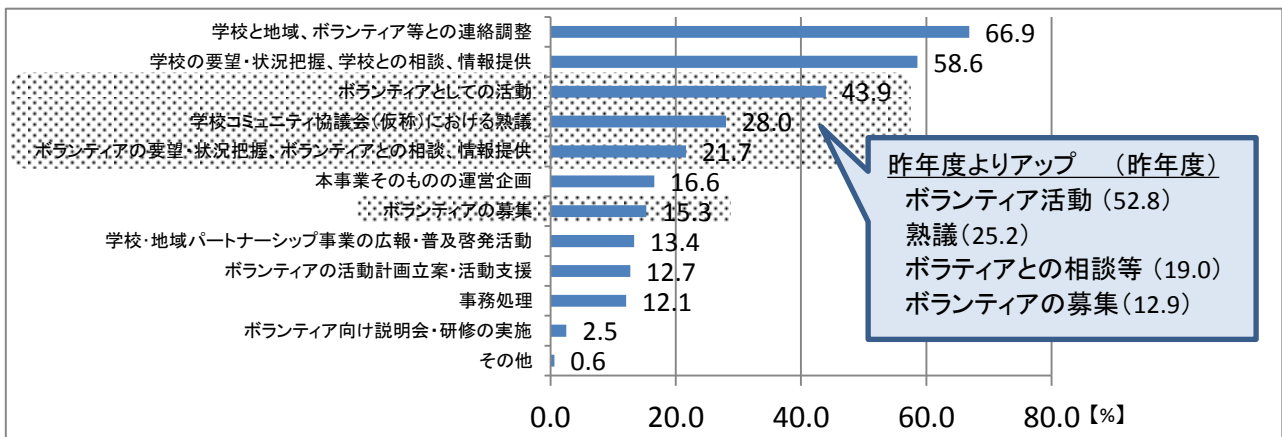
4.3回 (昨年4.3回)

多くのコーディネーター、ボランティアが学校を支援

- コーディネーターの所属は、地域住民が多く、次いで元PTA・元保護者、元教職員、PTA・保護者が続く。昨年度と比較すると元PTA・保護者の割合が上がっている。ボランティア活動やPTA活動を通じて、既に子どもたちと関わっていただいていた方が引き続きコーディネーターを担っていただいていることが多い。
- コーディネーターの年齢構成は、60歳から69歳が一番多く。退職後に、この事業に関わっていただいている方が多い。しかし、その高齢化も課題として挙がっており、次世代のコーディネーターの発掘・育成が喫緊の課題となっている。
- コーディネーターの経験年数は、平均3.5年。最長12年。(昨年は、平均3.4年)
- コーディネーターは、月平均10.1時間の活動を行っており、4.3回程度学校を訪問している。(昨年は、月平均11.3時間の活動、4.3回程度学校を訪問)
- 学校支援ボランティアは、昨年度と比べると平均で2倍以上になっており、多くのボランティアが学校に集っていただいている状況である。(1~691人)

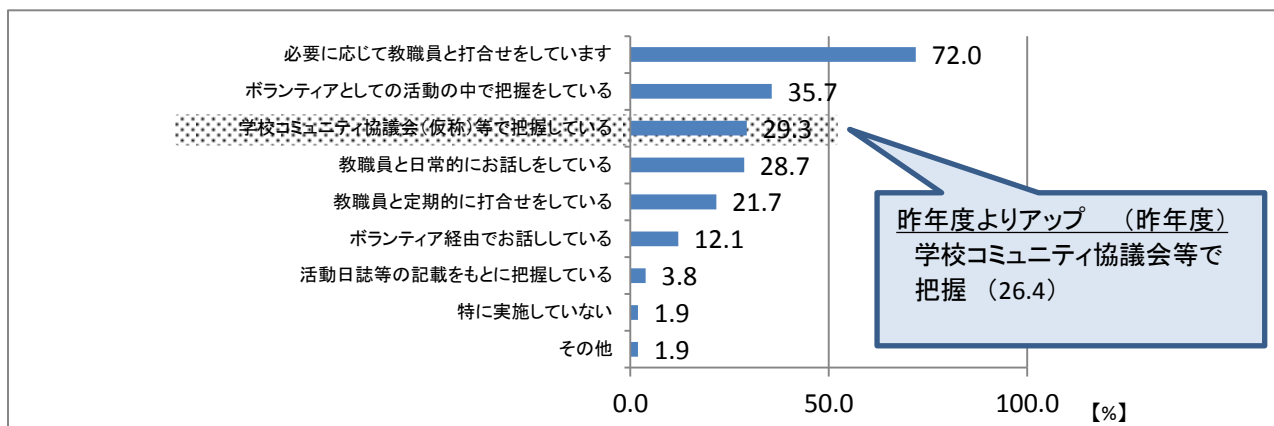
地域コーディネーターの活動について

(1) 力を入れて取り組んでいる内容 (3つまで選択)

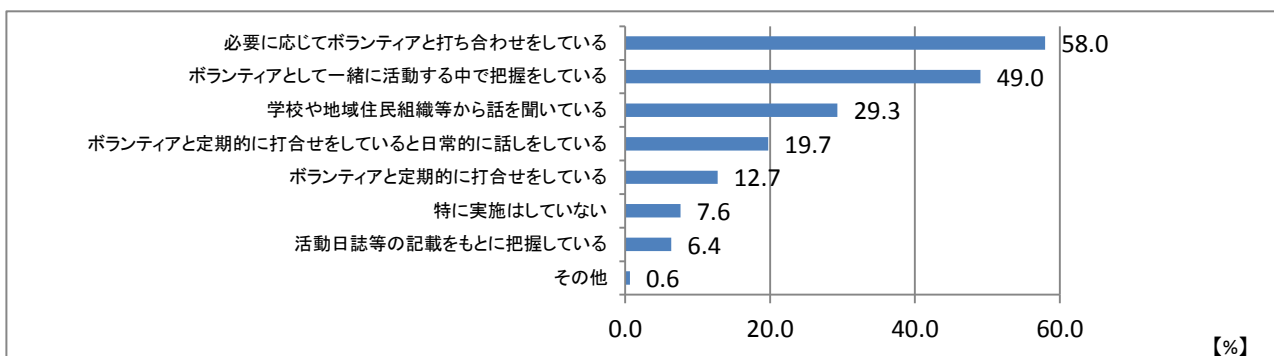


昨年度よりアップ (昨年度)
ボランティア活動 (52.8)
熟議 (25.2)
ボランティアとの相談等 (19.0)
ボランティアの募集 (12.9)

(2) 学校の要望把握の方法（複数回答）



(3) ボランティアの要望把握の方法（複数回答）



コーディネーターの役割の認知が進む

- コーディネーターが力を入れている活動は、①学校と地域・ボランティア等との連絡調整、②学校の要望・状況把握、学校との相談、情報提供であり、コーディネーターが重要な役割を果たしている。
- 昨年度と比べボランティアとしての活動に力を入れているコーディネーターが減り、ボランティアの募集や熟議、ボランティアとの相談など、コーディネートする活動に力を入れている人が増えている。多くのコーディネーターがその役割について積極的に研修いただいている結果であると言える。
- コミュニティ協議会を通じて、学校の要望を把握しているコーディネーターの割合が昨年度より高まり、また熟議の場において活発に発言するコーディネーターが昨年度より増えている。

地域コーディネーターの意見

- 事業に関わることを通して、地域ぐるみで子どもを育むことの大切さや、それぞれの学校・地域に合った独自の取組を生み出していく重要性に気づいたコーディネーターが多くおられた。
- 管理職が積極的に地域と良い関係を築いていただいていることが、様々な学校支援活動の充実につながっている。
- コーディネーターの体験談が交流できる研修会の実施の要望があった。自らの活動にその成功例、失敗例を役立てていきたいと感じておられる。また、熟議の進め方について学びたいという意見もあった。
- 活動の充実のために、予算の確保の要望が多数有り。